

開催日:平成30年2月16日(金)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
新井委員	「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」の運営について、私も携わらせていただいているが、活動自体は良い取り組みなので、3ヶ月児健診以外にも活動の場をもっと広げていただきたい。	今、生野区として養成している絵本サポーターは、約20名います。現在は、3ヶ月児健診の時にだけ読み聞かせをしていただいておりますが、来年度には1歳6か月児健診にも広げていけるよう調整をしています。 また、今後、絵本サポーターと図書館の絵本ボランティアとで連携を図るなど、将来的には子育てサロンなど活動の場をさらに広げていきたいと考えております。
新井委員	今、生野区の学校再編を進められているが、大阪市が総合区や特別区となった場合、どうなるのかと不安に思う。	まず、総合区であれば大阪市は残ります。つまり、教育委員会が残りますので生野区単位で学校再編の調整はしていますが、当然決めたことは教育委員会がきちりと担保をして進めていくこととなります。また、総合区の区長もそれを受けて実施していくこととなります。 次に、特別区になった場合は、今までの行政の取り組み事項をどのようにして特別区に引き継ぐのかが議論されるため、全てが白紙になるようなことはないと考えております。
大藤区PTA会長	民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」について、短期的に見れば、中学生の学力を向上させることは必要だが、長期的には小学生にもう少し力を注いでも良いと思うが、そちらの方は何か考えがあるのか。	小学生向けの事業としては、「学び支援事業 模擬検定のススメ」を行い、各学校の中で模擬検定を受けられる環境を提供していくという形で行っています。 また、来年度は、学校ごとにある学校長の予算で、放課後の学びサポーターの拡充を図っていくなど、教育委員会予算とも十分タイアップしながら、子どもたちの個々の教育状況を見ながら学べる環境をきちりと支援してまいりたいと考えております。
海士委員	「英語や多様な文化に対する興味や関心を高める」ことを学校で特に教える必要があるのかと思う。今はSNSやスマホが普及し、子どもたちはすでに多様な文化に対する興味や関心を持っている。	—
新井委員	英語のプログラミング体験事業を去年私の子どもも体験させてもらったが、小中学生が対象と言うことで、学年などを問わずグループを組んで英語を体験することから、英語を学ぶだけではなく、コミュニケーションも学べる。参加している子どもたちの表情を見ていても、また感想を聞いても、来て良かったという意見が出る良い事業だと思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
松田 副部長	<p>様々な事情によって、「学校に行きたくてもいけない子ども」や「不登校の子ども」がいる。そのような子どもが、どのようにすれば学校に来るようになるのか苦慮している。そのことも考えながら、本当に機能する新しい制度を考えてほしい。</p>	<p>新たな取組として今年度から子どもサポートネット事業を実施し、不登校などさまざまな課題を抱える児童生徒と子育て世帯に対して、学校と区役所が連携して総合的な支援を行ってまいります。</p>
高岡委員	<p>学校では、一生懸命、勉強を学んでほしい。また、学力の補充ということだけでなく、手仕事など生きていく力を身につけさせてほしい。</p>	<p>次世代を担う子どもたちが社会環境の多様な変化にも柔軟に対応することができるよう、未来を生き抜く力を育んでいく必要があると考えております。このため、自立学習、キャリア教育、チーム学校の3つをキーワードに、教育環境の充実を図ってまいります。</p>